

2016年8月9日

全国初 民間主体の規制緩和「セグウェイツアーin 二子玉川」

**9月2日(金)、一般の方を対象にした有料プログラムを開始します！**

8月9日(火)17:00、専用サイトにて参加申し込み受付を開始

二子玉川地区交通環境浄化推進協議会  
東京急行電鉄株式会社  
セグウェイジャパン株式会社

二子玉川地区交通環境浄化推進協議会、東京急行電鉄株式会社、セグウェイジャパン株式会社は、交通マナー啓発を目的とした「セグウェイツアーin 二子玉川」について、9月2日(金)から、一般の方を対象とした有料でのプログラム(以下、本取り組み)を開始します。

産業競争力強化法に基づく「企業実証特例制度」を活用し、民間が主体となって受ける搭乗型移動支援ロボットの公道走行に関する規制緩和としては、全国初の事例となります。

本取り組みは、「みちのコミュニケーション」をテーマに、歩きスマホや自転車のながら運転など、他者への気遣いに欠けた移動が散見される昨今、コミュニケーションをとりながら移動できるセグウェイの特徴を生かし、二子玉川の街並みや、街の方々とのコミュニケーションを楽しみながら、交通マナーへの意識を高めることを目的とした啓発活動です。

参加料は1人あたり6,000円(税込)で、収益は「セグウェイツアーin 二子玉川」運営のほか、二子玉川地区交通環境浄化推進協議会等において地域住民が自ら進める地区内の生活道路の安全促進の取り組み(ゾーン30啓発活動、自転車安全利用啓発活動など)に活用します。

また、本取り組みによる交通マナー向上効果を科学的に検証していくことを目的として、国土舘大学工学部理工学科(寺内義典教授)・日本大学工学部交通システム工学科(稲垣具志助教)による調査研究を実施します。

本取り組みをはじめとした、新しいテクノロジーや規制緩和などの手法を活用し、ロボット先進国日本における次世代に向けたまちづくり活動を進めていきます。



## 【別紙】

### 1. プログラムの詳細

- ・料 金 : 6,000円(税込)／1人
- ・プログラム概要 : セグウェイ走行のための1時間程度の講習を受講した後に、ガイドインストラクターを先頭に、街を巡るツアーを実施
- ・走行コース : 二子玉川駅周辺公道、区立二子玉川公園、多摩川河川敷などを巡る1時間程度のコース
- ・実施日程 : 週2回、1日2回程度実施予定
- ・申し込み方法 : 専用サイトから申込み(<http://www.tamagawa-segway.info>)  
※8月9日17:00 受付開始

### 2. これまでの取り組み

東京急行電鉄株式会社、セグウェイジャパン株式会社の2社は、産業競争力強化法に基づく「企業実証特例制度」を活用した次世代モビリティの公道走行に関わる道路交通法の規制の特例措置について検討を行ってきました。

一方、二子玉川地区交通環境浄化推進協議会では生活道路の交通安全対策を行うため交通部会を立ち上げるなど活動を広げ始めていました。(詳細は下記)

2016年4月、企業実証特例制度の特例措置を受け、この3者が世田谷区の協力を得て、地域の交通安全マナー啓発のプログラムである「セグウェイツアーin 二子玉川」を実施することとなりました。民間が主体となって受けるセグウェイを使った規制緩和としては日本初となります。

4月から7月までに、のべ331人、約730kmの検証走行を実施し、安全性の検証が終了したため、9月2日(金)から一般の方向けの有料プログラムを開始することが決定しました。

### 3. 二子玉川地区交通環境浄化推進協議会とは(<http://tamagawa30.info>)

玉川町会(玉川1~4丁目全域)を中心として、1986年から駐輪場の整備に関する活動、放置自転車対策など交通環境に関するさまざまな取り組みを行っている団体です。現在は、世田谷区の環境美化推進地区の指定されたことに伴い、ゴミ拾い活動を行う月1回の「クリーンタウン作戦」や放置自転車対策などを継続的に行っています。

交通安全対策の分野では、2011年度に実施した二子玉川商店街のアンケート結果をきっかけに、玉川オリジナルの交通安全についての調査活動や、ゾーン30※を目指すためのPR活動、子どもたちへの教育活動などを行っています。

「セグウェイツアーin 二子玉川」の実施に際しては、「セグウェイランチ」と称して、地域にお住まいの方々を中心に“セグウェイを通じた新しい交通安全”を考える取り組みを進めてきています。「セグウェイランチ」の参加者は、今般の有料プログラム開始に向けて、検証走行の運営と並行して、交通安全啓発のメッセージづくりなど、ツアーのコンテンツづくりを進めてきました。

※ゾーン30:

生活道路において歩行者などの安全な通行を確保するため、区域を定めて時速30キロの速度規制を実施するとともに、道路整備や意識啓発などソフト・ハード両面からの対策により速度抑制や通過交通の流入抑制を図る交通安全対策です。



セグウェイランチの様子



交通安全啓発活動の様子

## ◆調査研究を担う研究者からのコメント

### 《交通コミュニケーションを活性化する ツールとして有効だと考えます》

日本大学 理工学部 交通システム工学科  
稲垣具志 助教



インストラクター研修時にセグウェイでつくばのまちを走ったとき、日本人が苦手とするまちの中での他者とのコミュニケーションを、ごく自然に誘うことができるのではないかと期待を感じました。セグウェイが登場することで、なんだかカッコいいし、子どもたちは集まるし、笑顔になる。そこに交通安全における可能性があるのではないかと。

今、交通工学の学術分野でも「交通コミュニケーション」というキーワードが注目されるようになってきました。

例えば、渋滞の対策では、「道路を拡張する」だけでなく「クルマから公共交通に手段を転換してもらえるように呼びかける」というアプローチもあります。人の心に働きかけて考え方・行動を変えてもらうことで、課題を解決しようということです。

道路の空間を大きくとれない日本においては、歩行者・自転車・クルマなどが共存せざるを得ない状況が多く、交通安全でもコミュニケーションの観点からのアプローチが重要になってきます。ただ、コミュニケーションが重要だからと言って、見知らぬ歩行者に対して「こんにちは！こんにちは！」と声をかけているとちょっと変な人だと思われるかもしれませんし、そもそもそんな勇気がある人も少ないことでしょう。ところが、不思議なことにセグウェイに乗っていると、声をかけることが自然な状況になるのです。つまり、日本独特の「恥ずかしがり屋さん交通文化」「おすまし交通文化」が、セグウェイによって解かされてお互いのバリアが減っていくのではないかと思います。

交通コミュニケーションが活性化されると、同じ空間を動く他者に対する関心やいたわりの心が生まれることが期待できます。そのことが、歩きスマホや歩道爆走自転車に代表されるような、つかみどころのない課題を解決するひとつの手段になるのではないかと考えています。

### 《セグウェイに乗ることで自分を変えてみませんか》

国土館大学 理工学部 理工学科  
寺内義典 教授



ふだん、街なかで見知らぬ人に、手を振ったり、挨拶したり、していますか？そんなことは、しませんし、できませんよね。でも、セグウェイに乗って

いるあいだは、それができてしまう。まさに、人が変わったように。

さて、私たちは普段は交通安全を専門のひとつとして、各地で調査研究を通じたまちづくりの取り組みのお手伝いをしています。この交通安全の方法は、取り締まりと交通安全教育といった人への対策と、自動車や道路といったハードへの対策があります。それぞれ一朝一夕にいきませんが、人への対策について言えば、ルールの認知と遵守の困難があります。ルールが存在するだけで不十分で、そのルールを広く周知して認知してもらうことに加えて、いかなるときも確実に遵守してもらうことが必要になるからです。

自動車や自転車に乗っていて、いけないとわかっているのに、急いでいるとスピードを上げてしまう。ついつい、ながらスマホ歩きをしてしまう。本当に身勝手な迷惑行為、危険行為ですが、やっている本人からすれば、「ちょっと今だけ」とか「みんなやっているし」などの甘えがあると推測されます。甘えを律して、確実にルールを遵守してもらうことは、なかなか難しい。

そこで、冒頭の話に戻ります。「セグウェイに乗ると人が変わる」という特徴です。セグウェイに乗ると、笑顔が増えて、つい手を振ってしまいますこの取り組みに参加する学生が「まるでコスプレ」とたどていましたが、シチュエーションによる心境の変化という点で同じ効果ですね。

二子玉川では、この人を変えるセグウェイの力を活用し、街なかのコミュニケーションを増やししながら、交通安全を推進しようとしています。セグウェイに乗っている間だけでなく、降りた後も変わるのか。セグウェイと行き交う人たちも変わっていいのか。セグウェイはもちろん乗り物ですが、ただの便利な乗り物ではなく、街をよくしていく乗り物にしていくという挑戦なのです。ぜひ、皆さんが変わってみませんか。そして皆さんの手でセグウェイを街の仲間にご参加をお待ちしております。